

2018年指導者講習会 内容

◎ルール、マナーの問題の注意点

①サングラスの使用法と規格について（大会規則 VI用具5）

ミラーレンズは禁止です。（反射するものはプレイの妨げになる場合があります。）

フレームは黒色または紺色に準ずるスポーツサングラスのみ使用可です。（同上）

大会本部の事前確認にて許可を受けた物のみ使用できます。

帽子の上に乗せるなどの行為は禁止します。正しい着用をして下さい。

（以上の内容は選手、指導者、審判員も同様です。）

②イニング間に正規捕手の準備中に投手の投球練習を代理で行う選手について

2017年はキャッチャーヘルメットのみ装着でも座って投球を受けても良かったのですが、2018年からはキャッチャーヘルメットのみ場合は立ったまま受けて下さい。

これはプロテクター、レガースを装着していない場合の危険性を考慮したものです。

捕手用具を全て装着している代理捕手であれば正規の捕手が来るまで座って何球でも受けることができます。但し正規の捕手の用具を装着するのを控え選手や指導者が手伝って速やかにグラウンドに立てるようにすることが条件です。

③サイン盗みの禁止（大会規則「関東四連盟 関東選手権大会規則」VI試合の運営7、8 同規則VII監督・コーチの退場3）

球種とコースに関するサインを盗み打者に伝達することはスポーツマンシップに反する行為であります。審判員がこのような行為が発生していると判断した場合は、選手と監督の両方が退場させられる可能性があります。

具体的に禁止される行為はバッテリーのサイン交換後の走者、ベースコーチの「紛らわしい言動」です。

サイン交換後の走者の不自然な動き（ヘルメットに手を置く、手をぶらぶらさせる、膝の上の手を外すなど）やベースコーチも不自然な手の動きや言動（「思いっきり打て」、「よく見て打て」など）警告の対象となる場合があります。

紛らわしい行為が発覚したときに「選手が勝手にやった」という理由での免責は逃れられません。すべては監督責任となります。

注）本項を適用する場合は原則として試合出場審判員、控え審判員、大会または球場責任審判員のいずれかが協議の上、規則適用の可否を決めることとなります。

尚、規則適用の場合は場内放送設備がある球場は審判員が場内放送で説明をします。

※2017年から規則発行

④申告敬遠（大会規則「関東四連盟 関東選手権大会規則」Ⅵ試合の運営 14）

昨年同様で打者に対し初球の前に監督が申告した場合のみ有効です。

この場合実際には投球しなくて投球数（4球）は加算されます。

打者に対し1球でも投球されれば申告敬遠は申告できません。

⑤投手板の立ち方

セットポジションの時に軸足の踵部が投手版の側方部からはみ出ても罰則無しとします。

⑥捕手がミットを動かさない捕球をすること（審判員への侮辱、欺こうとする行為の禁止）

- ・捕手が投球を受けた時意図的にミットを動かすこと。
- ・捕手が自分でストライク・ボールを判断するかの様な行動をとること。
- ・球審の「ボール」の宣告にあたかも不満を示すように、しばらくミットをその場に置いておくこと

以上の行為はマナーアップ、フェアプレイの両面から辞めるよう指導して下さい。

⑦投球練習中にタイミングを図る行為

投手の投球練習中にネクストバッターがスイングやステップのタイミングを合わせる行為は投手に不利なため禁止します。

もし、こういった行為を行っていても罰則はありませんが、練習試合等から注意を促して下さい。

⑧スピードアップについて（大会規則 Ⅶ試合の運営区）

大会規則にも記載されていますが、特に多いと思われるものを記載します。

- ・試合中のボール回し
試合中で守備側のボール回しが終了して1塁手または3塁手が投手にボールを返す際、「ノーアウト」などと言ってから返すのではなく、速やかにボールを投手に渡してから発声するようにしてください。
- ・投手へボールを渡す際は投手方向に歩かず、その場所から投げるよう指導して下さい。
- ・捕手が投手への返球する際、ホームベースを超えてまでステップして返球する行為は止めてベースの手前で投げるように指導してください。（できればワンステップで）
- ・バッターが監督のサインを確認する際、バッターボックスを外さないよう指導して下さい。

以上のことは一つ一つの動きは大して時間的なロスはないようですが、1試合を通すとかなりの時間をロスするとともに、試合の緊張感を損ねる場合もありますので是非練習中から指導をお願いします。

⑩従来のバットの使用禁止について

本年より BPF1.15 のバットが使用禁止となります。

試合前の道具チェックで印字表記を確認します。あってはならない事ですが、もし従来のバットを使用した場合はペナルティがあることを認識して下さい。

ペナルティに関しては新しく今年配布される「リトルリーグ公認規定と競技規則」を確認の上改めて適用される内容をご連絡します。

いずれにしろ、使用禁止のバットが試合用に混ざらないよう十分注意してください。

また、もし試合前のチェックで発見された場合は一時的に本部で預かってもらうなど不要な疑いが掛からぬよう対応をお願いします。

⑪投手の義務について

リトル競技規則 3.05 (b)

休息日の投球数限度を監督が記録係に確認する時は当該投手をマウンドに行かせず待機させるよう指示して下さい。

仮に投球できない投手をマウンドに行かせたりするとトラブルの元になることがあります。

⑫大会会場の常設ネットへの打込み禁止について

大会会場においてトスなどによる打込みをする時、ほとんどのリーグは持参のネットを設置して行っていますが、たまに球場の常設ネットに打込んでいるチームのを見掛けます。こういう行為は常設ネットが傷ついたり破けたりすることもあるので控えてください。

⑬その他（反則投球に関する規則改正 野球規則 定義 38 注の削除について）

今年度の改正の解釈は「走者なしで（いわゆる）2 段モーションの投球を行った場合」はペナルティを適用しないが、走者がいればボークとなるので全ての条件で 2 段モーションが許されるものではありません。

日本式 2 段モーションは過去において「打者のタイミングを狂わそう」としたことが始まりであり、そもそもアンフェアな行為で正しいモーションとは言えません。依って我が国のリトルリーグは昨年までと同様に対応します。

すなわち、2018 年も走者なしの場合は「打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。」のルールが適用され、「禁止、罰則あり」とするとのことです。

以上